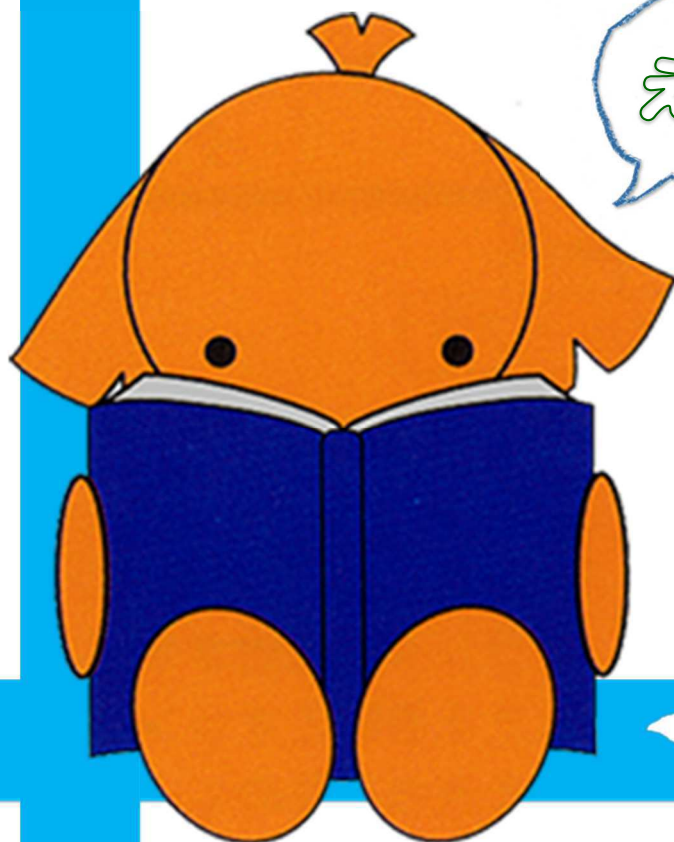


水巻町図書館

おすすめの本リスト



0・1・2さいから

あかちゃんとのスキンシップ



ベストセラー

「いないいないばあ」 松谷みよ子／文 瀬川康男／画 童心社

昔から読み継がれ、愛されている絵本です。声に出して読んでみるとわかる、優しい文章の響き。

そして、ページをめくると、「ばあ」と現れる動物たち。

赤ちゃんにもなじみ深い「いないいないばあ」は、いちばん最初に読んであげる絵本にぴったりです。



赤ちゃんをぎゅっとだきしめたくなる絵本

赤ちゃんはだっこがだいすき。おもわず赤ちゃんを「ぎゅっ」としたくなる幸せいっぱい絵本です。たくさん語りかけて、「ぎゅっ」と抱きしめてあげてくださいね。



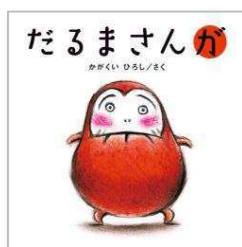
「よくきたね」
松野正子／ぶん
鎌田楊子／え
福音館書店



「ぎゅっ」ミニブック
ジェズ・オールバラ／作・絵
徳間書店



「くっついた」
三浦太郎／作・絵
こぐま社



「だるまさんが」
かがくいひろし／さく
ブロンズ新社

おどけた表情で揺れるだるまさん、ページをめくると…？なんとともえない表情のだるまさんがかわいらしい、小さい子から、少し大きくなった子どもまで、幅広い子どもの心をつかむ人気のシリーズ。他に、「だるまさんと」「だるまさんの」があります。

「ぴょーん」 まつおかたつひで／作・絵
ポプラ社



ページをめくると、動物たちがぴょーん！縦いっぱい絵が広がります。赤ちゃんもいっしょにぴょーん！

乗りものの絵本

「がたんごとんがたんごとん」 安西水丸／さく 福音館書店



「がたんごとんがたんごとん。のせてく
ださーい。リズムカルな言葉にゆられて
出てくるのは、赤ちゃんになじみ深い哺
乳瓶や、スプーン。終点はお食事のテー
ブルの上です。はっきりした色合いの挿
絵が赤ちゃんの目をひきます。



「のりもののいっぱい」 柳原良平／作・絵
こぐま社



自動車、バス、電車にモノ
レール。いろいろな乗り物
が、とてもシンプルにデフ
ォルメされたイラストで描
いてあります。乗りものた
ちはみんな赤ちゃんのお友
だち。さあ乗り込んで、行
ってきまーす！

「バルンくん」 こもりまこと／さく 福音館書店



バルバルバルーッと軽快
に走るバルンくん。坂道
をぐんぐんのぼり、うね
うね道を走って向かった
先は、サーキット場。
レトロな色彩鮮やかに、
いろいろな車も出てきま
す。乗り物に興味が出て
きたお子さんに。

「かにこちゃん」 きしだえりこ／さく
ほりうちせいいち／え くもん出版



小さな赤いかにの子、か
にこちゃん。海がだいす
きなかにこちゃんの一
日を、美しい言葉と印象
的なイラストで描いて
います。何度も繰り返
して読んであげたい絵本
です。

「たまごのあかちゃん」

かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え
福音館書店



たまごのなかでかくれ
んぼしている赤ちゃん
は、だあれ？たまごか
ら、いろいろな動物の赤
ちゃんがこんにちは！
さあ、次は何の赤ちゃん
が生まれるのかな？

「じゃあじゃあびりびり」
まついのりこ／作・絵 偕成社



暮らしの中のいろい
ろな音を鮮やかな絵で紹
介。四隅が優しくカット
され、赤ちゃんの手に
ちょうどいい大きさ
で、自分でめくること
にも挑戦できます。フ
ァーストブックにおす
めです。

「もこ もこもこ」

たにかわしゅんたろう／さく
もとながさだまさ／え
文研出版



「もこ もこもこ、によき」
ふしぎな言葉ときれいな色
の絵が、子どもの想像力をか
きたてます。
次のページがどうなるか、わ
くわくしながら楽しめます。

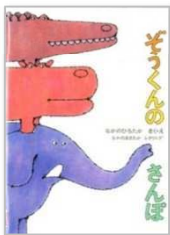
「おやおや、おやさい」

石津ちひろ／文 山村浩二／絵 福音館書店



今日は、おやさいのマラソン大会！
おどけた表情のやさいたちがいっせいにスタートをきりました。“韻”を踏んだリズムが楽しい、言葉あそび絵本。

「ぞうくんのさんぽ」なかのひろたか／さく・え 福音館書店



きょうはいい天気。
ぞうくんがさんぽに出かけると、かばくんに会って…。
わかりやすい色と形、繰り返しの物語。シンプルなストーリーを楽しむようになる3歳前にぴったりの絵本です。

「きんぎょがにげた」

五味太郎／作 福音館書店



「きんぎょがにげた。
ほら、またにげた。」金魚がお花になったり、キャンディになったりしてくれんぼ。
お部屋の中の、金魚を見つけれかな？指をさしながら探すのも楽しいひとときです。

かぞくといっしょにあそぼう！ わらべうたの絵本



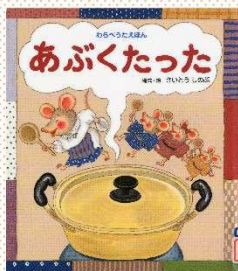
「あがりめさがりめ」

ましませつこ／絵
こぐま社



「あぶくたった」

さいとうしのぶ／構成・絵
ひさかたチャイルド



「ねーずみねーずみどーいきや？」

こがようこ／構成・文
降矢なな／絵 童心社



「どんどんばしわたれ」

こばやしえみこ／案 ましませつこ／絵 こぐま社



歌いながら見る「わらべうた絵本」。ゆっくりとページをめくりながら、赤ちゃんと楽しみましょう。同じシリーズに「ととけっこう よがあげた」「まてまてまて」「ちびすけ どっこい」「せんべ せんべ やけた」などもあります。

食べものの えほん

おいしそうな絵で、赤ちゃんに食事の楽しさを伝えます。もぐもぐもぐと、手で遊びながら読むのも楽しい絵本を集めました。離乳食が始まったころからどうぞ。



「くだもの」
平山和子／さく 福音館書店



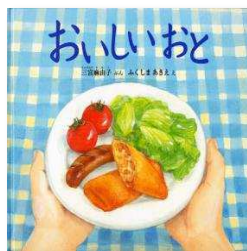
「サンドイッチサンドイッチ」
小西英子／さく 福音館書店



「おいしいおと」

三宮麻由子／ぶん ふくしまあきえ／え 福音館書店

ごはんを食べるときに聞こえるおいしい音。目をつぶって感じてみましょう。ご飯を食べると「ムッチ ムッチ ムッチ」。いろいろな触感や歯ごたえを、楽しい、おいしい擬音語で表現しています。赤ちゃんの食事が楽しい時間になりますよ。



「なにをたべてきたの？」

岸田衿子／文 長野博一／絵 佼成出版社



鮮やかな果物がとても美味しそうで、しろぶたくんの表情も味があってとてもかわいい絵本。本のサイズが大きく、物語もシンプルなので、多人数への読み聞かせにもお勧めです。

「やさいのおなか」

きうちかつ／さく・え 福音館書店

これ、なあに？白黒で描かれたのは野菜の断面図です。次のページに野菜のイラストと、名前。野菜の断面図が美しいイラストで描かれています。子どもに問いかけながら楽しく読める絵本です。



「しろくまちゃんのほっとけーき」

森比左志・わだよしおみ／著 若山憲／絵
こぐま社



おいしいものを楽しむ作って、お友だちと仲良く食べる。見開きいっぱい描かれた、ホットケーキが焼けていく絵は、子どもたちが大好きなページです。しろくまちゃんのエプロンにもご注目！

「まるくておいしいよ」

小西英子／さく 福音館書店

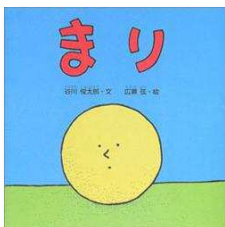
赤ちゃんの大好きな形、丸。大きさや色がさまざまな丸が登場し、「これなあに」。ページをめくると、ケーキやのりまき、おいしいものが現れます。0歳の頃から、長く楽しめる絵本です。



「かわいいあひるのあかちゃん」
モニカ・ウェリントン／さく
たがきょうこ／やく 徳間書店



「まり」
谷川俊太郎／文 広瀬弦／絵
クレヨンハウス



「くらいくらい」
はせがわせつこ／ぶん
やぎゅうげんいろう／え
福音館書店



「どうぶつのおやこ」 藪内正幸／画 福音館書店



文字がない動物の絵本です。動物画家の藪内正幸さんの絵は、とても細やかで、赤ちゃんにとって親しみやすい優しい絵です。ひとつひとつの絵から、親子の愛情が伝わってきます。赤ちゃんのペースで語りかけてあげてください。

「くろねこあさん」 東君平／さく
福音館書店



くろねこあさんが産んだ、くろねこ三びきと、しろねこ三びき。声に出して読むと、言葉のリズムのよさがわかります。切り絵のくろねこ、しろねこの動きの対比がたのしい絵本。

「ママだいすき」
まど・みちお／文 ましませつこ／絵 こぐま社

赤ちゃんはみんなママが大好き。それは人も動物もいっしょです。まど・みちおさんの優しい詩でおくる、幸せいっぱい絵本です。



「おっぱい」 みやにしたつや／作・絵
すずき出版



そうさんだって、ぶたさんだって、おっぱい飲んで大きくなるよ。弟や妹が生まれて、おにいちゃんや、おねえちゃんになった子どもにもおすすめ。みーんな元気に大きくなあれ。

「ママ、あのね」 福田幸広／写真
ゆうきえつこ／文 岩崎書店

「ママ、あのね」と動物の赤ちゃんが問いかけると、動物のおかあさんが愛情たっぷりに答えます。「ママのところ」にうまれてくれてありがとう。動物たちの写真がとても愛らしい絵本です。



生活の絵本



「おててがでたよ」

林明子／さく
福音館書店



「おしりしりしり」

長野ヒデ子／作
長谷川義史／絵
佼成出版社



「といれ」

新井洋行／作・絵
偕成社



「パンツのはきかた」

岸田今日子／さく
佐野洋子／え
福音館書店



「わにわにのおふろ」 小風さち／ぶん 山口マオ／え 福音館書店

みどりの体に、黄色い鋭い目…。見た目はちょっとこわいけど、おふろが大好きなわにわに。湯船にオモチャをうかべたり、あぶくを飛ばして遊んだり、シャワーヘッドをマイクにして歌も歌います。ちょっとかわった擬音語も、この絵本の面白さを引き立てます。ちょっとお風呂を渋ったとき、読んであげるといいかもしれませんね。

おやすみなさいのまうに



「ねんね」

さえずひろこ／文
アリス館

いろいろな動物のねんねの写真絵本。動物たちのかわいい寝顔といっしょに、赤ちゃんを心地よい眠りに誘います。



「くーくー ねむりんこ」

南控控／著 アリス館

「ねむっているのはだあれかな」柔らかく温かい色で描かれた動物たちの幸せな寝顔。優しい言葉が繰り返され、赤ちゃんを夢の国へ誘います。



「おやすみなさいコッコさん」

片山健／さく・え
福音館書店

お月さまが言いました。ほら、ごらん、みんな眠っているよ。でもコッコさんはまだ眠たくありません。お月さまが優しくコッコさんに語りかけると…。



おふとん かけたら

かがくい ひろし／さく

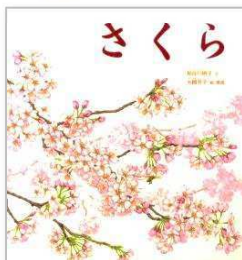
「おふとんかけたら」

かがくいひろし／さく
ブロンズ新社

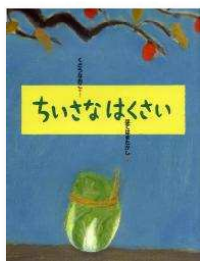
いろいろなものにおふとんをかけたらどうなるのかな？リズムの良い繰り返しの言葉が眠気をさそいます。最後はおふとんかけて、ぬーくぬく。さあ、おやすみなさい。

季節の絵本

SPRING



「さくら」
長谷川摂子／文
矢間芳子／絵・構成
福音館書店



「ちいさなはくさい」
くどうなおこ／さく
ほてはまたかし／え
小峰書店



「はなをくんくん」
ルース・クラウス／ぶん マーク・シーモント／え
きじまはじめ／やく 福音館書店

森の中のあちらこちらで動物たちがはなをくんくん。春の訪れの喜びをシンプルに描き出します。モノクロで描かれるページの中に、たったひとつ鮮やかに彩色される一輪の花。春を待つ冬の夜長に、お子さんとぜひ読んでください。

SUMMER

いちおし

「はちうえはぼくにまかせて」

ジーン・ジオン／さく
マーガレット・フロイ・グレアム／え
もりひさし／やく ペンギン社

夏休みに、はちうえを育てることに決めたトミー。問題がおきても、自分で調べて解決して、はちうえといっしょにトミーも成長していきます。がんばったあとにはお楽しみも待っていました！



「なつのいちにち」
はたこうしろう／作
偕成社



「なつのおとずれ」
かがくいひろし／作・絵
PHP 研究所

AUTUMN

せつない



「さつまのおいも」
中川ひろたか／文 村上康成／絵
童心社



「ぼんぼん山の月」
あまなきみこ／文 渡辺洋二／絵
文研出版



「どうぞのいす」
香山美子／作
柿本幸造／絵
ひさかたチャイルド

ある日、うさぎさんがいすをつくりました。「どうぞのいす」と名前をつけたそのいすを、いろいろな動物たちが訪れます。そしてお礼に…。秋の森の、心やさしいお話です。

WINTER

「ゆきのひ」

エズラ=ジャック=キーツ／ぶん・えきじまはじめ／やく 偕成社
朝、目をさましてみると、外は大雪！かわいいぼうや、ピーターは赤いマントを着て、さっそく外へ出かけます。子どもの雪の日の喜びを、鮮やかな色で表現しています。



「ゆき」

ユリ・シュルヴィッツ／作
さくまゆみこ／訳
あすなろ書房



「十二支のお節料理」

川端誠／作
BL出版

X'mas Books

子どもたちの大好きなクリスマス。穴の開いたしかけがかわいい「まどから★おくりもの」。文章も少なくわかりやすいので小さなお子さんから楽しめます。もうすこししっかりお話の聞けるお子さんには「ちいさなもみのき」をどうぞ。冬の夜にぴったりの物語です。

しかけえほん



「まどから★おくりもの」

五味太郎／作・絵
偕成社



「ちいさなもみのき」

マーガレット・ワイス・ブラウン／さく
バーバラ・クーニー／え
かみじょうゆみこ／やく
福音館書店

自然と科学の絵本



「ふゆめがっしょうだん」

長瀬太／文 富蔵忠夫・茂木通／写真
福音館書店



「くちばし」

ヒアンキ／ぶん 藪内正幸／え
田中友子／やく 福音館書店



「木」 木島始／文 佐藤忠良／画 福音館書店

木の成長は、人の一生と重なります。今は小さな子どもたちも、この木のように大きく育つことでしょう。自然の持つ雄大さを感じる絵本です。



「みずとはなんじゃ?」

かこさとし／作
鈴木まもる／絵
小峰書店

水ってなんだろう？生活のなかで身近な水について考える科学絵本。かこさとし先生が子どもたちに遺してくださった最後の絵本です。

「きらきら」

谷川俊太郎／文 吉田六郎／写真 アリス館
谷川俊太郎さんのやさしい文章と、きれいな雪の結晶の写真絵本です。自然の創り出す美しさを楽しんでください。



たべものの絵本

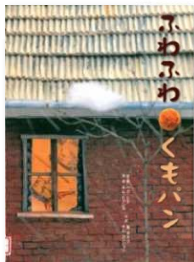


写真と絵で
作られた韓国の絵本

おいしそうな
くもパンを食べると
不思議なことが
おこります!?



「ぐりとぐら」
なかがわりえこ／さく
おおむらゆりこ／え
福音館書店
ぐりとぐらのカステラの、
おいしそうなことといった
らありません! 二代、三代
で読んでいるという方もい
らっしゃるのでは? 記憶に
残り続ける名作です。



「ふわふわくもパン」
ベク・ヒナ／文と絵
キム・ヒャンス／写真
星あキラ キム・ヨンジョン／共訳
小学館



「からすのパンやさん」
かこさとし／作・絵
偕成社
いずみかもりのカラスの
パン屋さん夫婦に、かわ
い四羽の赤ちゃんが生
まれました。たのしいパ
ンがたくさんあって、眺
めるだけでおなかがすい
てきそうな絵本です。



「はらぺこあおむし」
エリック＝カール／さく
もりひさし／やく 偕成社

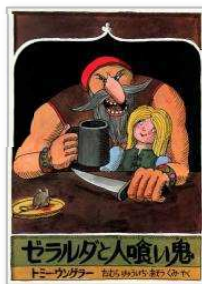
色の魔術師、エリック・
カールの代表作。色とり
どりの楽しい食べものが
広がるページは、子ども

たちに大人気。ちっぽけだったあおむしが美しいチヨ
ウになるラストは、子どもの成長に重なります。



「あっちゃんあがつく」
みねよう／げんあん
さいとうしのぶ／さく
リーブル
あっちゃんあがつくアイス
クリーム、いっちゃんいが
つく…。
どこかなつかしいリズムに
のせて、おいしそうなお
食べ物たちと、あいうえおの言
葉遊び絵本です。

たのしい



「ゼラルダと人喰い鬼」
トミー・ウンゲラー／さく
たむらりゅういち・あそうくみ／やく
評論社

おそろしい人喰い鬼は、子
どもを食べるのが大好きで
した。ある日、町にでかけ
たゼラルダは、人喰い鬼に
見つかってしまいます。や
さしいゼラルダはおなかの
すいた人喰い鬼を見て…。



「ひみつのカレーライス」
井上荒野／作 田中清代／絵
アリス館



「ねずみさんのながいパン」
多田ヒロシ／作
こぐま社



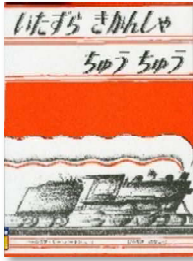
「ちいさなたまねぎさん」
せなけいこ／作・絵
金の星社



「じゃがいもポテトくん」
長谷川義史／作・絵
小学館



のりもの絵本



「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」

バージニア・リー・バートン／ぶん・え むらおかはなこ／やく 福音館書店

ちいさなきかんしゃちゅうちゅうは、毎日たくさんのお客や荷物を乗せて、ちいさな町のちいさな駅とおおきな町のおおきな駅をいったりきたりしていました。ある日ちゅうちゅうは、「わたしひとりならもっとはやくはしれるんだ」と考えて、ひとりで駅を飛び出します！

白黒の絵はページいっぱい描かれて、絵本から飛び出しそうな勢いです。長い間、のりもの好きな子どもに愛されている名作です。



「しょうぼうじどうしゃ じぶた」

渡辺茂男／さく 山本忠敬／え 福音館書店

じぶたは小さな消防自動車です。乗り物絵本を代表する、昔ながらの作品なのに、少しも古びることのない名作です。

しかけえほん



「やこうれっしゃ」

西村繁男／さく 福音館書店

夜の闇の中をずんずん進む夜行列車。さて、中はどうなっているでしょう…。文字のない絵本を楽しんでください。



「でんしゃでいこう でんしゃでかえろう」

間瀬なおかた／作・絵 ひさかたチャイルド

トンネルのむこうはどんなかな？表から読むと、電車は冬の山から、春の海へ。裏から読むと、春の海から冬の山頂へ。しかけが楽しい絵本です。



「あおだ すずめすずめ」

ベネディクト・プラスウェイト／作 青山南／訳 BL出版

まっかなちっちゃいきかんしゃと運転士のダフィは、青信号をどんどんすむように言われました。海の下のトンネルをぬけ、フランスに入り、スペインを走り、どんどん進みます。まっかなちっちゃいきかんしゃシリーズは、7冊あります。



「ゆうちゃんのみきさーしゃ」

村上祐子／さく 片山健／え 福音館書店

ゆうちゃんの「みきさーしゃ」は、おなかに何かをいれると、たちまち素敵なおかしができてあがる不思議な「みきさーしゃ」です。さあ、なにができてあがるのかな？



「おたすけこびと」

なががわひろ／文 コヨセ・ジュンジ／絵 徳間書店

「はい、しょうちました」指令を受けたこびとたちが、はたらく車たちと大活躍！さあ、何ができるのかな？



「とらたとおおゆき」

なががわりえこ／文 なががわそうや／絵 福音館書店

雪がふりました。とらの子「とらた」が、おとうさんの作ったそりで出かけると、そりについた鈴の音をきいて友だちがたくさん集まってきて…。

どうぶつの絵本



「いしんぼうのはなこさん」
いしいももこ／ぶん
なかにちよこ／え
福音館書店
はなこは、とてもわがままな子牛でした。あるとき牧場で、みんなで食べるおいもとかぼちゃを、よくばって食べてしまっ…。



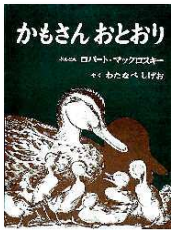
「とりかえっこ」
さとうわきこ／作 二俣英五郎／絵
ポプラ社
ひよこがびよびよ鳴きながら散歩していると、ねずみに会いました。二匹は鳴き声をと리카えっこすることにしました。それからそれから…。



「ちいさなねこ」
石井桃子／さく 横内義／え
福音館書店
ちいさなねこが、おかあさんねこの目を盗んで遊びにでかけました。でも外は危険がいっぱい…。子ねこはどうなるのでしょうか。



「ねずみくんのチョコッキ」
なかえよしを／作 上野紀子／絵
ポプラ社
赤いチョコッキを着たねずみくん。そこへ動物たちがやってきて、「ちょっときせてよ」とつぎつぎにチョコッキを着ていきます。あらあら、チョコッキはどんなのびて…。



「かもさんおとおり」
ロバート・マックロスキー／ぶんとえ
わたなべしげお／やく 福音館書店
かもの一家が川から町に引越します。子がもを引き連れたかものマラード奥さんでしたが、町には車もたくさん通っていて、さあ大変！おまわりさんを巻き込んでの一大事です。



「どろんこハリー」
ジーン・ジョン／文
マーガレット・ブロイ・グレアム／絵
わたなべしげお／やく
福音館書店
おふろが大嫌いなハリーは、ブラシをかくして、外に逃げ出してしまいました。思う存分遊びまわって、どろだらけになって帰宅したハリーでしたが、家族はだれも気づいてくれません。



「ちいさなヒッポ」
マーシャ＝ブラウン／さく
うちだりさこ／やく 偕成社
ちいさなカバのヒッポは、お母さんに言葉と生きるすべを教わります。美しい木版画の絵が印象的。子どもは、自分をヒッポに置き換えて、どきどきしながら聞き入ります。ロングセラーの力強さを改め感じる絵本です。



「どうぶつしんちょうそくてい」
聞かせ屋。けいたろう／文
高畠純／絵 アリス館

読み聞かせにも
ぴったり



「トラのじゅうたんになりたかったトラ」
ジェラルド・ローズ／文・絵
ふしみみさを／訳 岩波書店
すっかり歳をとって、めったに獲物がとれなくなっていました。やせこけたトラが、ある素敵な考えを思いつきました！はたしてうまくいくでしょうか？とびきりゆかいなお話です。

さあ、動物たちの身長測定の時間です。ちょっとでも大きくなりたい動物たち。おや、カンガルーはジャンプしていますよ。さて、ゴリラの先生、うまく測ることができるかな。



「ぞうのエルマー」
デビッド・マッキー／文・絵
きたむらさとし／訳
BL出版

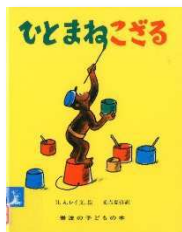
エルマーはパッチワークのぞうでした。まわりとは違うけれど、みんなエルマーが大好きです。ところがエルマーは、自分がほかのぞうと違うことに悩んで、こっそり群れから抜け出すことに…。



「ちよろりんのすてきなセーター」
降矢なな／さく・え 福音館書店

とかげの子のちよろりんは町で見かけた、春のはらっぱいろをしたセーターがほしいです。ちよろりんはじいちゃんのランプづくりのお手伝いをして、赤いお金をふたつもらいます。

色彩がとても美しく、印象的な絵本です。



「ひとまねこざる」

H.A.レイ／文・絵 光吉夏弥／訳
岩波書店

こざるのじょーじはとっても知れたがり。動物園を抜け出してバスに乗り、町へやってきました。お皿あらいにペンキぬり、楽しいことがいっぱいです。何世代にもわたって親しまれているロングセラーです。



「ぐるんぱのようちえん」

西内ミナミ／さく
堀内誠一／え 福音館書店

ぐるんぱは、ひとりぼっちのぞうでした。ひとりぼっちがさみしくて、泣いたりもします。仲間たちは、そんなぐるんぱを働きに出すことに決めました。

ぐるんぱはいろいろな仕事をやってみますが、なかなかうまくいきません。でも、最後に開いた幼稚園は大成功！ぐるんぱはもう、さみしくありません。お話を聞く子どもたちも、きっとにっこりするでしょう。

絵本の中の
『本』



「としょかんライオン」 ミシェル・ヌードセン／さく
ケビン・ホクス／え 福本友美子／やく 岩崎書店

ある日、図書館にライオンが入ってきました。きちんときまりの守れる、とてもいいライオンでした。館長のお手伝いをして、子どもたちと静かに話を聞くのです。

「きまり」は大事ですが、もっと大切なこともあるのだということを教えてくれる一冊です。



「しずかに！ここはどうぶつのとしょかんです」
ドン・フリーマン／作
なががわちひろ／訳 BL出版



「ルリユールおじさん」
いせひでこ／作
講談社

いちおし



「エリザベスは本の虫」
サラ・スチュワート／文 デイビッド・スモール／絵
福本友美子／訳 アスラン書房

ぼうけんの絵本



「みどりの船」

クエンティン・ブレイク／作

千葉茂樹／訳 あかね書房

夏休みに、禁止されていたお屋敷の庭にもぐりこんだ二人は、そこでびっくりするようなものを目にします。そして、彼らの冒険はここから始まるのです。

冒険の世界は、無限大に子どもの頭の中に広がっています。その世界を開くのも閉ざすのも、わたしたち大人なのだということを教えてくれます。



「かいじゅうたちのいるところ」



モーリス・センダック さく じんぐうてるお やく

「かいじゅうたちのいるところ」

モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく 富山房

いたずらっこのマックスはかいじゅうのぬいぐるみを着て大あばれ。そしてたどり着いたのは、「かいじゅうたちのいるところ」。かいじゅうたちの王さまになって、いっぱい遊んだマックスは…。

子どもの想像力の深さ・大きさを描いた絵本として秀逸です。読み聞かせをすると、子どもがくぐりぐぐり絵本の世界に入り込む、不思議な絵本です。

「ウエズレーの国」



「せんをたどって」

ローラ・ユンクヴィスト／さく

ふしみさを／やく 講談社

一筆描きの線をたどりながら、考えて、観察して、数をかぞえてみましょう。北欧ならではの色づかいが美しく、ながめて、たどって楽しい絵本です。



ポール・フライシュマン／作

ケビン・ホークス／絵

千葉茂樹／訳 あすなろ書房

ウエズレーは、ほかの子どもたちとすこしだけ違っていました。夏休み、ウエズレーが思いついたことは…。自己の目覚める小学校高学年にこそ読んで欲しい絵本。



「11ぴきのねこ」

馬場のぼる／著

こぐま社

11ぴきのねこはいつもおなかをぺこぺこです。ある日、湖に大きな魚がいてと教えられたねこたちは…。リズムのよい語り口と、どんでん返しが楽しい絵本。



チムとゆうかなん
せんちょうさん

「チムとゆうかなんせんちょうさん」

エドワード・アーディゾーニ／さく

せたといじ／やく 福音館書店

チムは船乗りになりたいくて、こっそり汽船に乗り込みました。ところが、船が岩にぶつかって、チムは船に取り残されてしまいます。世代を超えて子どもたちに支持されてきた、海の冒険物語です。



おおきな きが
ほしい

「おおきなきがほしい」 さとうさとる／ぶん むらかみつとむ／絵 偕成社

「おおきな おおきな 木があるといいなあ。」かおるはおかあさんに言いました。庭には小さな木しかありません。けれど、かおるが欲しいのは、もっともっと大きな木なのです。どんな木かっていうとね…。

絵本の中いっぱい、かおるの木が広がります。はしごで登ると、途中には小さな小屋もあります。リスや小鳥もたくさん遊びにきます。細やかな絵で、まるで本当に、大きな木にかおるといっしょに登っているようです。終わったあとには、こう思うでしょう。「おおきな木がほしい」ってね。



「くまのコールテンくん」 ドン＝フリーマン／さく

まつおかきょうこ／やく 偕成社

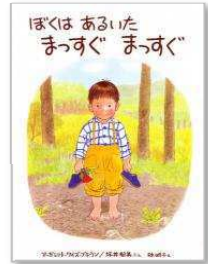
コールテンくんはデパートのおもちゃ売り場にいた、小さなくまのぬいぐるみでした。ずぼんのボタンがひとつとれていたので、誰にもおうちに連れて帰ってもらえません。そこで真夜中のデパートの中に、ボタンを探しに出かけます。

新しい友だちのリサにぎゅっと抱きしめられるコールテンくんを見て、子どもたちはきっとほっとするでしょう。誰かに贈りものをしたくなるクリスマス時季にぴったりの絵本です。

「ぼくはあるいた まっすぐ まっすぐ」

マーガレット・ワイズ・ブラウン／作 坪井郁美／文 林明子／絵 ペンギン社

ある春の日、「ぼく」ははじめてひとりでおばあちゃんの家へ歩いていきます。とちゅう、たくさんの「はじめて」に出会います。それでも「ぼく」はまっすぐ歩いていくのです。余白の多い美しい絵が印象的です。



「たろうのおでかけ」 村山桂子／さく 堀内誠一／え 福音館書店

たろうは、なかよしのまみちゃんの誕生日に、すみれの花とアイスクリームを持って急いで出かけていきます。走ってこうしたら、「だめ、だめ、だめ」。でも、原っぱまで来たら…。のびのびとした絵と明るいい色づかいで、元気いっぱいになれる絵本です。

「はじめてのおつかい」 筒井頼子／さく 林明子／え 福音館書店

「あかちゃんのぎゅうにゅうがほしいんだけど、ママ ちょっといそがしいの。ひとりでかってこられる？」いつつのみいちゃんは、ある日ママから頼まれて、はじめてひとりでおつかいにでかけます。百円玉をふたつにぎりしめて、坂のてっぺんにあるお店まで…。

子どもたちは、みいちゃんの気持ちになってドキドキしながら聞いてくれます。子どもの頃読んでもらって印象的だったというママ世代の声も多いロングセラーです。



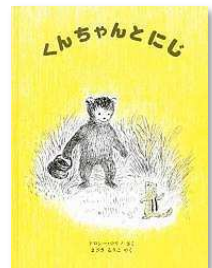
「こすずめのぼうけん」

ルース・エインズワース／作
堀内誠一／画 石井桃子／訳
福音館書店



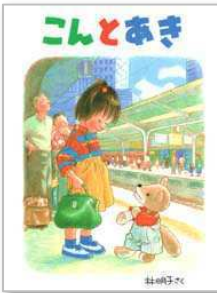
「もりのなか」

マリー・ホール・エッツ／ぶん・え
まさきりこ／やく 福音館書店



「くんちゃんにとじ」

ドロシー・マリノ／さく
まさきりこ／やく
ペンギン社



「こんとあき」 林明子／さく
福音館書店

ぬいぐるみのこんは、あきが生まれたときからずっといっしょでした。あきはだんだん大きくなっていき、こんはだんだん古くなっていきました。そしてある日、とうとうこんの腕が、ほころびてしまいました。治してもらうために、二人はおばあちゃんのところへ出かけることにしましたが…。



「スイミー」 レオ=レオニ／作
谷川俊太郎／訳 好学社

スイミーはたくさんのきょうだいたちと暮らしていました。けれどあるとき、とても大きな魚がやってきて、スイミー以外のさかなたちを残らず食べてしまっ…。悲しみにくれるスイミーが海の中で目にしたものは？何度読んでも心にしみのお話です。

「海のおばけオーリー」

M.H.エッツ／文・絵
石井桃子／訳 岩波書店



おかあさんとはぐれてしまったアザラシの子オーリーの長い旅。版画のような白黒の絵で、漫画のようなコマ割り仕立てです。不思議なことに、その画風が人間の優しさと勝手さを浮き彫りにしているように思えます。



「おいしいのぼうけん」
古田足日／作 田畑精一／画
童心社



「モチモチの木」
斎藤隆介／作 滝平二郎／絵
岩崎書店



「だんごむしそらをとぶ」
松岡達英／作 小学館

地面をころころ転がっているだんごむし。空にあるだんご、ある日「そらとぶマシン」を作りました。さあ、だんごむしくん、どこへ行く？松岡達英さんの緻密な絵が、子どもたちの想像力を育てます。



「月夜のみみずく」
ジェイン=ヨーレン／詩 ジョン=ショーエンヘル／絵
工藤直子／訳 偕成社

冬の夜更け、お父さんに連れられて、ミミズクを探しにでかけます。読んでみると、まるで自分も夜更けの冬の森の中にいるような、張り詰めた気持ちになります。ミミズクに会えるかな、会えたらいいなというワクワクする気持ち、大自然の雄大さを感じさせてくれるきれいな絵。冬に読みたい一冊です。

「だってだってのおばあさん」

佐野洋子／さく・え
フレーベル館



愛と友情の絵本



「ラチとらいおん」

マレーク・ペロニカ／ぶん、え
とくながやすもと／やく 福音館書店

ラチは弱虫な男の子です。いつもひとりで絵本を読んでいます。ラチは思いました。「ほくにライオンがいたら、なんにもこわくないんだけどなあ！」そんなラチの前に現れたのは、ほんの小さなライオンでした…。子どもの背中を押してくれる一冊。

「ゴリオとヒメちゃん」 アンソニー・ブラウン／さく

久山太市／やく 評論社

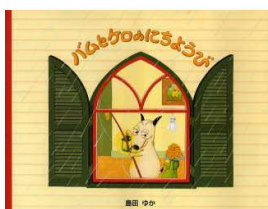
むかし、ある所にとてもかしこいゴリラがいました。名前はゴリオ。ゴリオは手話を教えてもらい、何不自由なく暮らしているようにみえましたが、実はとても寂しかったのです。

「ほくが…ほしいのは…ともだち」。けれど動物園にはほかのゴリラはいません。そこで世話係の人がつれてきたのは、ちいさなネコのヒメちゃんでした。



「バムとケロのにちょうび」

島田ゆか／作・絵
文芸堂



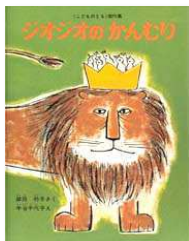
「ともだちや」

内田麟太郎／作
降矢なな／絵
偕成社



「ジジオのかんむり」

岸田杢子／さく 中谷千代子／え
福音館書店



「そらめくんのベッド」

なかやみわ／さく・え
福音館書店



「まゆとおに」

富安陽子／文 降矢なな／絵
福音館書店

おには、やまんばのむすめまゆを食べようと、お湯をわかしはじめますが…。天真爛漫なまゆと、あわてふためくおにのやりとりが楽しい絵本。



「ないしょのおともだち」

ビバリー・ドノフリオ／文
バーバラ・マクリントック／絵
福本友美子／訳 ほるぷ出版

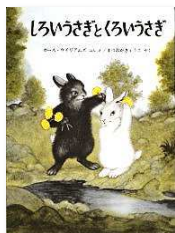
マリアとネスネスは、同じ家に住むないしょのおともだち。細部まで描きこまれた美しい絵は、何見ても飽きません。宝ものように大切な1冊になることでしょう。



「ウェン王子とトラ」 チェン・ジャンホン／作・絵 平岡敦／訳 徳間書店

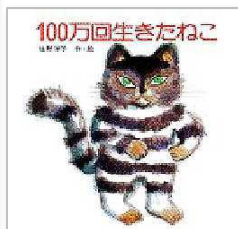
昔、獅師に子どもを殺され、人間を憎むようになったトラが、村を襲い、人々を悩ませていました。

トラの怒りを鎮めるために、「幼い王子を生贄として森におきざりにせよ」との予言を受けた国王と后は、泣く泣くわが子を森の奥へ送り出します。しかし王子は、トラの心にひそむ優しい気持ちを思いだし、立派な少年へと成長して…。



「しろうさぎとくろうさぎ」

ガース・ウィリアムズ／ぶん、え「手ぶくろを買いに」
まつおかきょうこ／やく 新美南吉／作 黒井健／絵
福音館書店 偕成社



「100万回生きたねこ」
佐野洋子／作・絵 講談社

100万回も死んで、100万回も生きたねこは、一回も泣いたことがありません。ところがある日、一匹の美しい白いねこに恋をして…。幼い人も、大人も心をゆさぶられる名作です。お子さんの心の成長が実感できる機会を、与えてくれる絵本です。

「すてきな三にんぐみ」

トミー＝アンゲラー／作
いまえよしと／やく 偕成社
黒いマントに黒い帽子。それはそれは、こわーい泥棒の三人組。印象的な青と黒を基調にした表紙がさらに三人組の不気味さを引き立てます。ところが一変して後半からのどんでんがえし。不気味な三人組が、愛すべき三人組へと変わります。



「ちびゴリラのちびちび」
ルース・ボーンスタイン／さく
いわたみみ／やく
ほるぶ出版



「どんなにきみがすきたかあてごらん」
サム・マクプラットニ／ぶん
アニタ・ジェラーム／え
小川に央／やく 評論社



「ほしをさがしに」

しもかわらゆみ／作・絵
講談社
冬の夜、ねずみは流れ星をみつけました。落ちて来た星を見つけて、願いをかなえてもらおうと考えたねずみは…。動物の姿が細かく美しく描かれていて、印象的な絵本です。



「花さき山」

斎藤隆介／文 滝平二郎／絵
岩崎書店

道に迷ったあやに山姥が教えてくれたのは、不思議な花の話でした。それは、人がひとつ優しくいことをするたびに、ひとつ咲くという花。わたしたちは人生で何輪、この花を咲かせることができるでしょうか。

自分以上に、相手を想う気持ち



「ごんぎつね」

新美南吉／作 黒井健／絵
偕成社



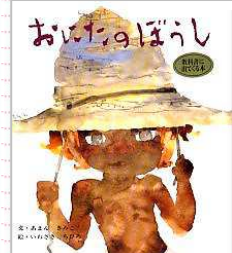
「こいぬのうち」

クワン・ジョンセン／文
チョン・スンガク／絵
ビョン・キジャ／訳
平凡社



「島ひきおに」

山下明生／文
梶山俊夫／絵
偕成社



「おにのぼうし」

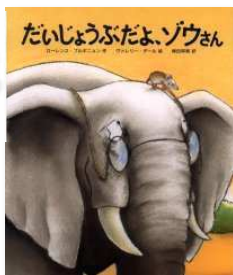
あまみきこ／文 いわさきちひろ／絵
ポプラ社

節分の日の、心優しい
子鬼の物語。

いのちの絵本

大切な誰かを亡くすのはとてもつらいことです。それが家族や友だちだろうと、ペットの犬だろうと。

けれど、別れは必ず訪れるもの。大切なのは、別れが訪れるまでの時間をどう過ごしていくか、そして悲しみをどう乗り越えるかということです。「死」、そして「命」とは何なのかを問いかけます。



「だいたいじょうぶだよ、ゾウさん」
ローレンス・ブルギニョン／作
ヴァレリー・ダール／絵
柳田邦男／訳 文芸堂



「おじいちゃんがおばけになったわけ」
キム・フォブス・オーカソン／文
エヴァ・エリクソン／絵
荻木晃子／訳 あすなろ書房



「だいたいじょうぶだいたいじょうぶ」
いとうひろし／作・絵
講談社



「かないくん」
谷川俊太郎／作
松本大洋／絵
東京糸井重里事務所



「ずーとと ずーと だいすきだよ」
ハンス・ウィルヘルム／えとぶん
久山太市／やく 評論社

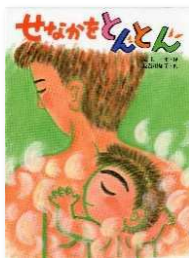


「くまとやまねこ」
湯本香樹実／ぶん
酒井駒子／え
河出書房新社

バリアフリーの絵本



「さっちゃんのまほうのて」
たばたせいいち
先天性四肢障害児父母の会の
べあきこ
しざわさよこ／共同制作
偕成社



「せなかをとんとん」
最上一平／作
長谷川知子／絵
ポプラ社

「どんなかんじかなあ」
中山千夏／ぶん
和田誠／え



「ともだちのまりちゃんは めがみえない。それで かんがえたんだ。みえないって どんなかんじかなあって。」
自分と違う立場の人の気持ちを想像してみることが、思いやること、優しくすることの 最初の一步かもしれません。
想像すること。大切だと思ふ気持ちを伝えあえること。
高学年の子どもたちに読むのにもおすすめです。

ふしぎなおはなし

「きみの町に星をみている
ねこはいないかい？」

えびなみつ／作 架空社

「このおはなしはひみつだよ」の冒頭文から始まります。タイトルの意味は、本を読み終わったあとにわかるでしょう。絵本を読み終わったあとは、外にねこを探しに行きたくなるかもしれません…。



「じごくのそうべえ」

桂米朝 上方落語・地獄百景より

たじまゆきひこ／作
童心社

「とざいとーざい かるわざしのそうべえ」綱渡りの最中に綱から落ちてしまった軽業師のそうべえ。地獄でえんま大王と痛快なやりとりが始まります。関西弁が楽しい、落語絵本です。



「わたしのワンピース」

にしきまかやこ／えとぶん
こぐま社

最初は真っ白だった、わたしのワンピース。お花畑を散歩していると、きれいなお花模様！うらラン、ロロロン、歌を口ずさみながら進んでいくと…。



子どもは、身の回りの小さな品からも、大きな想像の翼を広げていくことができるのですね。

「旅するベッド」

ジョン・バーニンガム／作
長田弘／訳 ほるぶ出版

「そらいろのたね」

なかがわえいこ／さく おおむらゆりこ／絵
福音館書店

「りんごかもしれない」

ヨシタケシンスケ／作
ブロンズ新社

テーブルのうえにりんごがおいであつた。でも、もしかしたら、これはりんごじゃないのかもしれない。ひとつのりんごから発想が無限大に広がります。声に出して読んでも楽しく、幅広い年齢層に支持されています。



「あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま」

イ ヨンギョン／ぶん・え
かみやにじ／やく 福音館書店



韓国の少し昔のお話です。裁縫の上手な奥さんと、裁縫道具の7人の仲間たち…。どの道具も自分が一番大切だと言ってゆすりません。さあ、どの道具が一番大切なのでしょうか？どの仲間がかけても裁縫はできなくなってしまうのに…。

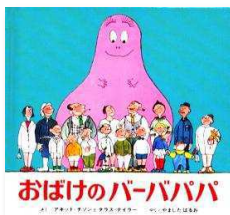
色鮮やかな韓国の伝統衣装や、家の中の様子など、日本とはまた違った文化を感じることができます。

誰もいない神社でめちやくちやな歌をうたったかんだに、不思議なことがおこります…。



「めっきらもっきら どおんどん」

長谷川摂子／作 ふりやなな／画
福音館書店



「おばけのバーバパパ」
アネット=チソン+タラス=テ일러／作・画
やましたはるお／やく 偕成社

バーバパパのはじまりの物語。
バーバパパシリーズの絵本に
は、すべてにふりがながついて
います。



「つみきのいえ」
平田研也／文
加藤久仁生／絵 白泉社

「光の旅 かげの旅」 アン・ジョナス／作
内海まお／訳 評論社

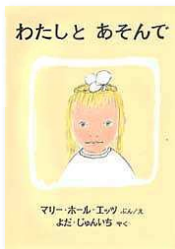
黒と白の二色で描かれた表紙をひらくとそこにはとても奥深い世界が広がっています。二色だからこそ描き出せる、光と影の旅。最後のページまで読んだら、今度は逆さまにして逆から読んでみてください。



「キャベツくん」 長新太／文・絵 文研出版
キャベツくんが散歩をしていると、お腹を空かせたブタヤマさんに会って…。「キャベツ、おまえをたべる！」「ほくをたべると、キャベツになるよ！」空をみるとなんとそこに浮かんでいたのは…。キャベツくんとブタヤマさんのやりとりが楽しい、ナンセンスユーモアあふれる絵本。

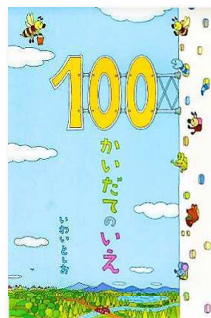
「わたしとあそんで」 マリー・ホール・エッツ／ぶん・え
よだ・じゅんいち／やく 福音館書店

「わたしとあそんで」女の子が動物たちに声をかけますが、動物たちはみな、ぴよんと逃げてしまいます。だあれも遊んでくれないから、そっと石に腰かけていると…。淡いクリーム色の絵が、まるで春の日だまりのようです。女の子と動物たちのやりとりが優しい気持ちにさせてくれます。



「おしゃべりなたまごやき」
寺村輝夫／作 長新太／画
福音館書店

にわとり小屋にぎゅうづめのにわとりたちを見てかわいそうに思った王さまは、とびらを開けてしまいました。ところが、とびらを開けた犯人さがしが始まって、王さまは…。遊ぶのが大好きな王さまは、子どもそのもの。長新太さんの、のびのびした絵がとても楽しい絵本です。



100 かいだてのいえ
いわいとしお／作 偕成社

デイヴィッド・ウィーズナーの絵本



「かようびのよる」
当麻ゆか／訳 徳間書店



「漂流物」
BL出版

毎年アメリカでもっとも優れた絵本に贈られる、コールデコット賞を受賞した二作。

「かようびのよる」（1992年受賞）、「漂流物」（2007年受賞）は、ともに文字がほとんどなく、文字がないゆえに子どもたちの想像力を刺激します。ウィーズナーの不思議な世界をぜひ、お子さんと一緒に体験してみてください。

かぞくのおはなし



「あかちゃんのゆりかご」

レベッカ・ボンド作
さくまゆみこ訳 偕成社



赤ちゃんがうまれてくる！
家族はみんなおおよろこびして、
とびきりのゆりかごを作ります。
やってくる命はすべて、こんなに
ワクワクして待たれていたんだ。
生まれてくることの素敵さを感じ
られる物語です。

「おへそのあな」

長谷川義史／作 BL出版

家族みんなが、赤ちゃんが生まれてくる
日を待っています。赤ちゃんも、おへそ
のあなから見ています。家族の声も聞いて
います。外の匂いも感じています。お
腹の中の赤ちゃんの視点から描いた、ユ
ーモアたっぷりで心温まる絵本。



「おかあさんがおかあさんになった日」

長野ヒデ子／作 童心社



赤ちゃんこんにちは、おかあさんよ。あ
なたのおかげで、わたしはおかあさんにな
れたのよ。

ありがとう。あなたの生まれた日。わた
しがおかあさんになった日——。

赤ちゃんが生まれてくる日、期待と不安
が入りまじった一日を描いた絵本。待ち
望まれて生まれてきた喜びを子どもたち
へ贈ります。

「ちょっとだけ」



「ちょっとだけ」

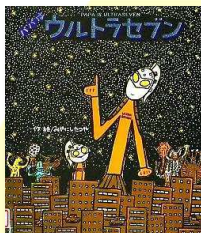
瀧村有子／さく 鈴木永子／え

福音館書店

なっちゃんの家には赤ちゃんがきました。お母さんはなんだか忙しそうです
…。小さなお姉さんはたくさん頑張って、いろいろなことが、「ちょっとだ
け」できるようになっていきます。

上の子の優しいガマンと、お母さんの愛があふれる絵本です。

おとうさんといっしょ



「パパはウルトラセブン」

みやにしたつや／作・絵
学研教育出版

パパはウルトラセブン。パパは闘っ
ている。悲しいこと、苦しいこと、
色々あるけれど、それでも闘う。だ
って、愛する人がいるから——。闘
うパパとその家族に、エールを贈る
一冊です。がんばれ！おとうさん！



「ねずみのとうさんアナトール」

イブ・タイタス／文 ポール・ガルドン／絵
晴海耕平／訳 童話館出版

アナトールは毎日家族のために食べ物を探し
に走ります。ところがある日、人間に悪口を
言われ落ち込みます。

役に立つねずみになろうと奮闘するアナト
ールパパがかっこいい！

「すえっこ おおかみ」



「すえっこおおかみ」

ラリー・デー・ブリーマー／ぶん

ホセ・アルエゴとアリアンヌ・デュイ／え
まさきりこ／やく あすなろ書房

兄妹たちにくらべて、ちょっと自信のな
い末っ子おおかみ。「そのままいいんだ
よ」と、おとうさんが優しく諭します。



「ぎゅうぎゅうかぞく」
ねじめ正一／作 つちだのぶこ／絵
すずき出版

としおくんの家は「ぎゅうぎゅうかぞく」。「ぎゅうぎゅうかぞく」ってなにかっていうとね…。
今は少なくなった大家族。としおくんのうちはなんと！！三世帯同居です。自分の家族や親せきと、比較しながら読むのもおもしろい一冊です。



「きょうはなんのひ？」
瀬田貞二／作
林明子／絵
福音館書店

「きょうはなんのひだか しってるの？ しらなきゃ かいだん三だんめ」おかあさんが階段に行ってみると赤いひもをむすんだ手紙がありました。そして…。おとうさんとおかあさんの結婚記念日には、素敵な結末が待っていました。

かわいい



「かわいくなかないっ！」
ジョナサン・アレン／さく
せなあいこ／やく 評論社

フクロウのフクちゃんは、でっかくてこわいものなしのハンターです。今日もみんなの平和を守るために森をパトロール！でも、森のみんなときたら、フクちゃんのことをかわいいと言って、だっこしたり、ぎゅっとしたり…。フクちゃんはもうカンカンです。そこにお母さんがやってきて…。



「まっくろネリノ」
ヘルガ＝ガルラー／さく
やがわすみこ／やく 偕成社



「しりたがりやのふくろうぼうや」
マイク・サラー／さく
デービッド・ピースナー／え
せなあいこ／やく 評論社



「だるまちゃんとてんぐちゃん」
加古里子／さく・え
福音館書店



「おとうさんのちず」 ユリ・シュルヴィッツ／作
さくまゆみこ／訳 あすなろ書房

戦火をのがれ、貧しく、食料も乏しい生活。お腹をすかせた僕におとうさんが買ってきたのは、パンではなく一枚の地図でした。壁に貼られた地図は、僕の前にかくさんの色を広げました。そして、大きな希望が生まれました。
コルデコット賞受賞作家シュルヴィッツの自伝的絵本。美しい色彩に圧倒されます。

せいがつの絵本



「うんちっち」

ステファニー・ブレイク／作
ふしみみさを／訳 あすなろ書房
うさぎの子シモンは、誰
になにを聞かれても、答
える言葉は「うんちっ
ち」！ある日、オオカミ
と出会ったシモンはいつ
ものように…。おとうさ
んの読み聞かせにもおす
すめです。

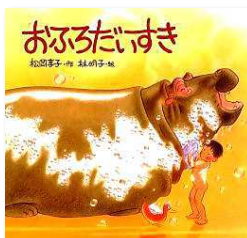


「もぐらとずぼん」

エドアルド・ペチシカ/ぶん
ズデネック・ミレル/え
うちだりさこ/やく

福音館書店

もぐらは、青いずぼんがほしくてたまらなくなりました。たくさんの友だちの助けをかりて、もぐらのずぼん作りが始まります。



「おふろだいすき」

松岡享子／作 林明子／絵
福音館書店

まこちゃんがおふろでからだをあらっていると、大きなかめがざあーと浮かんできました。それから…。こんなおふろだったら楽しいね!子どもの空想の世界を楽しく描きます。



「おじさんのかさ」

佐野洋子／作・絵 講談社

おじさんはだいじなかさを持っていました。雨の日にかさをさすなんてとんでもない。かさがぬれるじゃありませんか。ところがある日、ちいさな男の子の楽しそうなたを聞いたおじさんは、とうとうかさをさしてしまいました。



「せんたくかあちゃん」

さとうわきこ／さく・え
福音館書店

せんたくの大好きな赤ちゃん。うちじゅうのものをせんたくしてしまうと、猫や犬まで捕まえて、せんたくしてしまいます。それを空からみていたのはかみなりさま。かみなりさまは地上におりてきて…。



「おおきくなるっていうことは」

中川ひろたか／文 村上康成／絵
童心社

あんなに小さかった子どもたちも、あっという間に成長していきます。「おおきくなるってどういうこと？」その答えはこの絵本の中にあります。誕生日や、人生の節目に読んであげたい本です。



「しろくまのパンツ」

tupera tupera/作
ブロンズ新社

帯でできた赤いパンツをはいたしろくまくん。パンツがなくて探しています。このパンツは誰のかな？しましまパンツやみずたまパンツ…。どれもしろくまくんのじゃないみたい。



「OLIVIA」

イアン・ファルコナー／作
谷川俊太郎／訳 あすなろ書房

おしゃまなこぶた、オリビア。好奇心いっぱい、天真爛漫な女の子です。

なんでもしょうずで、人を
へとへとにするのが得意。
そんな、どこにでもいる子
どもの様子が、ユーモアい
っぱいに描かれた、おちゃ
めなお話です。



「ちいさいおうち」
はーじあ・リー・ぼーとん/ぶんとい
いしいももこ/やく
岩波書店

ひなぎくの咲く丘に、小さなおうちが建っていました。小高い丘はやがて切り崩され、道路が通り、工場ができ…。ちいさいおうちが、もとの静かな居場所にもどるとき、本当にほっとします。



「スカーリーおじさんのはたらく人たち」

リチャード・スカーリー/作
稲垣達朗/訳 評論社
とびきり楽しいお仕事絵本です。スカーリーの絵は細やかで、どのページをめくっても楽しめまします。こんな仕事をするひとになりたいな！という子どもの声が聞こえてきそうです。



「こんなおみせしてる?」
藤原マキ/さく
福音館書店
大人が見ると、ちょっと懐かしい、子どもから見るとそこは不思議な世界…。そんなちょっとレトロでマニアックなお店をあつめました。



「おふろやさん」
西村繁男/作
福音館書店

最初の一文のあとは、文字のない絵本です。くつを脱いで下駄箱に入れ、さあ、お風呂に入りましょう。そうそう、肩までつかってね。心までほかほかあったまりそうな絵本です。



おやすみなさいの前に



「パパ、お月さまとって!」
エリック=カル/さく
もりひさし/やく 偕成社



「おやすみなさいおつきさま」
マーガレット・ワイズ・ブラウン/さく
クレメント・ハード/え
せたていじ/やく 評論社



「14ひきのこもりうた」
いむらかずお/作
童心社

おやすみなさいの前に読んでもらった絵本の記憶は、子どもの心にあたたかく残るでしょう。おふとんに入って、いっしょに寝転んだり、おひざに抱っこして体温を感じたりしながら絵本の世界を親子で味わってください。



「よるくま」
酒井駒子/作・絵
偕成社



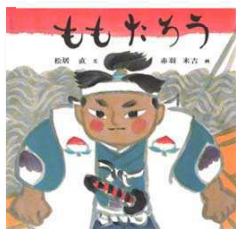
「いそがしいよる」
さとうわきこ/さく・え
福音館書店



「おつきさまこっちむいて」
片山令子/ぶん 片山健/え
福音館書店

昔話

ずっと読み継がれている物語だからこそ、
ながく愛されている絵本を子どもたちに。



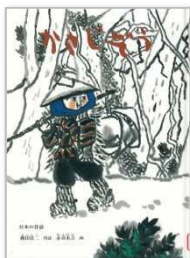
「ももたろう」

松居直／文 赤羽末吉／画 福音館書店
日本の昔話といえば、やはりこの「ももたろう」ではないでしょうか。出版から半世紀たちますが、長く愛されているこちらの絵本。数多く出版されている桃太郎ですが、一番に出会う桃太郎にはこの本をお勧めします。



「かにむかし」

木下順二／文 清水崑／絵 岩波書店
さるかに合戦の名前でも親しまれているこちらの昔話。するがしこい猿のところへ、子かきが親のかたき討ちをしに行きます。うす、はち、牛のふんたちを仲間に引き連れて。さあ、どうなる？リズムよく読んであげましょう。



「かさじぞう」

瀬田貞二／再話 赤羽末吉／画 福音館書店

藍色の和紙を背景に、昔話の素朴なあたたかさを水墨画で描いた傑作。子どもたちに伝えていきたい優しさのあふれる物語です。



「だいくとおにろく」

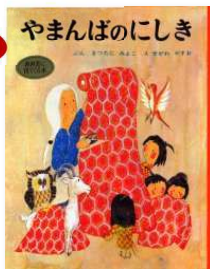
松居直／再話 赤羽末吉／画 福音館書店

鮮やかな色彩のページとモノクロのページが交互に出てきます。鬼の表情がとても豊かで、幅広い年齢の子どもをひきつけます。



「かえるをのんだととさん」

日野十成／再話 斎藤隆夫／絵 福音館書店



「やまのばのにしき」

まつたにみよこ／ぶん
せがわやすお／え
ポプラ社



「いっすんぼうし」

いしいももこ／ぶん あきのぶく／え



ロシアの昔話「おだんごばん」

せたていじ／やく わきたかず／え
福音館書店



中国の民話

「王さまと九人のきょうだい」

赤羽末吉／絵 君島久子／訳
岩波書店



「ねずみのよめいり」

おざわとしお／再話
かないだえつこ／絵
くもん出版



「スーホの白い馬」

大塚勇三／再話
赤羽末吉／画
福音館書店

「馬頭琴」という楽器の由来になった、切なく哀しいモンゴルの民話。サンケイ児童出版文化賞を受賞した美しい絵本です。小学校で学習する話の中でも、子どもの心に深く残るもののひとつです。



「3びきのくま」
トルストイ／文 バスネツォフ／絵
おがさわらとよき／訳
福音館書店



グリム童話「ねむりひめ」
フェリクス・ホフマン／え
せたいじ／訳 福音館書店



北欧民話「三びきのやぎのがらがらどん」
マーシャ・ブラウン／え
せたいじ／やく 福音館書店
三びきのやぎの名前はみんながらがらどんといいました。緑の草を食べに行くには、こわいトロルの住んでいる橋を渡らなければいけません。おとうさんの読み聞かせにもおすすめです。



「ふくろのなかにはなにがある?」
ポール・ガルドン／再話・絵
こだまともこ／訳 ほるぷ出版

表紙のきつねの表情が秀逸。袋の中身が次々入れ替わっていく楽しさ。日本のわらしべ長者に似た展開ですが、最後にみんなが大満足の結末になります。読み聞かせにもおすすめです。



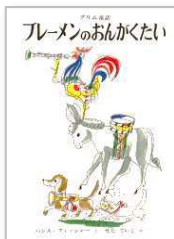
グリム童話
「おおかみと七ひきのこやぎ」
フェリクス・ホフマン／え
せたいじ／やく
福音館書店



イギリスの昔話
「三びきのこぶた」
山田三郎／え
瀬田貞二／やく
福音館書店



ロシアの昔話
「おおきなかぶ」
Aトルストイ／再話
佐藤忠良／画
内田莉莎子／訳
福音館書店
「うんとこしょ どっこいしょ まだまだかぶはぬけません」繰り返しの言葉のリズムが心地よく、小さな子が最初に親しむことのできる昔話です。



グリム童話「ブレーメンのおんがくたい」
ハンス・フィッシャー／え
せたいじ／やく 福音館書店

グリムの昔話のなかでも、少し長めのお話なので、幅広い年齢の子どもに親しまれています。フィッシャーの絵がお話の世界を広げます。生きるちからとたくましさ伝わってきます。



イソップ物語
「ライオンとねずみ」
ジェリー・ピンクニー／作
さくまゆみこ／訳
光村教育図書

イソップ物語より、「ライオンとねずみ」。擬音語だけの文字とイラストで構成されています。

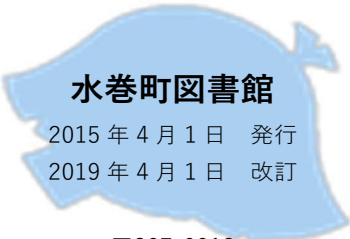


ウクライナ民話
「てぶくろ」
エウゲーニー・M・ラチョフ／え
うちだりさこ／やく 福音館書店

おじいさんが落とした手袋を小さなねずみが見つけた。「ここで暮らすことにするわ。しばらくするとそこにかえるがびよんびよん

迫り満点に描かれたリアルな動物たちや、奥行きのある自然の風景は、詳細に物語の内容を語りかけてくれます。2010年コールドコット賞、金賞受賞作品です。

はねてきて…。次々に動物たちがやってきます。おしゃれぎつねや、大きなくままで！さあ、小さな手袋に入ることができるのかな？ウクライナに古くから伝わる物語です。



水巻町図書館

2015 年 4 月 1 日 発行

2019 年 4 月 1 日 改訂

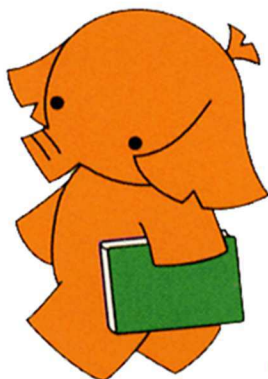
〒807-0012

福岡県遠賀郡水巻町古賀 3 丁目 1 8 - 1

TEL 093-201-5000

FAX 093-201-0995

<http://library.town.mizumaki.lg.jp/>



Mizumaki
Library